

令和6年度第2回教育委員会協議会 会議録

令和6年度第2回教育委員会協議会

場所：高知共済会館 3階 大ホール「桜」

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 令和6年6月19日(水) 14:00

閉会 令和6年6月19日(水) 15:40

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席委員	教育長	長岡 幹泰
	教育委員	池 康晴
	教育委員	永野 隆史
	教育委員	森下 安子
	教育委員	町田 美紀
	教育委員	弥勒 美彦

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	小笠原 直樹
〃	教育次長	濱川 智明
〃	教育次長	今城 純子
〃	参事 兼 教育政策課課長	鈴木 智哉
〃	高等学校課課長	並村 一
〃	高等学校振興課課長	野田 健一
〃	教職員・福利課企画監	吉良 善邦
〃	学校安全対策課課長	高橋 潤
〃	小中学校課課長補佐	大崎 万紀子
〃	特別支援教育課課長	板橋 潤子
〃	生涯学習課課長	原 貴
〃	保健体育課課長	前田 義朗
〃	人権教育・児童生徒課課長	山中 恵美
〃	教育センター所長	刈谷 直文
〃	高等学校振興課主幹	吉村 貴史(議事録作成)
〃	高等学校振興課指導主事	大石 智則(議事録作成)

(4) 議事の概要

【冒頭】

教育長	ただいまから県立高等学校再編振興計画の次期計画に関する、令和6年度第2回教育委員会協議会を開催する。 生徒数の減少がさらに見込まれる中、まずは県立高等学校の規模と配置について委員からご意見をいただきたいと考えている。併せて、社会の変化に対応した高校の改革などに対するご意見をいただきたい。
-----	---

【資料説明】

次期計画における学校規模等について

○高等学校振興課長 説明

【議題】

1 適正規模、適切配置と統合等について

○質疑

教育長	高等学校振興課からの説明について、何か質問や意見はあるか。
池委員	<p>適正規模については、文部科学省が1学年4学級から8学級を示しており、高知県も準じて4学級から8学級としている。県立高等学校の在り方検討委員会では高知県の実態にそぐわない状態であり、適正規模という言葉を使わなくてよいという意見だった。ただし、適正規模、入学定員を4学級から8学級とすることで、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づく加配等の措置により、多くの教職員の配置が可能となるメリットがある。</p> <p>多様な選択科目が組める、習熟度別学習の少人数規模の授業が可能になるなど、教職員の配置数によって、教育の中身が大きく変わるため、適正配置という言葉は必要ないかもしれないが、高知市内の学校は6学級規模を目標にする、維持していくという考え方が必要である。また、都市部あるいはその周辺校においては、4学級を目標値にする、維持する努力を県教育委員会もしていかないとはいえない。</p> <p>現在も入学定員を満たしておらず、今後10年で生徒数がさらに1,000人減少する。都市部、周辺部において、入学定員を減らして、小規模校ばかりにするのではなく、適正規模を維持するために、統合を進めていくという考え方も、子どもの教育環境を維持していくには必要になる。高知国際高等学校ができたイメージで、2校統合して新しい学校を作り出す発想によって、子どもたちの教育環境を守るということは非常に大事ではないか。</p> <p>また、中山間にある学校については、登下校できる交通手段がない子どもたちの教育機会を奪うことになるため、無理な統廃合ではなく、一定の規模を保ちながら、魅力化を図り、残していくことが重要である。ただし、在り方検討委員会の意見にあるように、定量的な条件を設定したうえで、統廃合を含めた検討ができるようにしておくべきではないか。</p> <p>地元の中学生がどれだけ進学しているかという数字も基準にしていく必要があるのではないか。</p>
永野委員	<p>これまでの再編振興計画では、適正規模にそった改革が進められており、統合により象徴的な学校も生まれた。少子化に抗うことのできない側面は承知で、そこにどうコミットするかが最大のポイントになる。</p> <p>今までは中山間と都市部という分類で再編が進んできたが、明確な分類が難しい。都市部周辺にある学校について、都市部、中山間との関わりを明瞭にして、どのような学校が該当するかについて協議をしていきたい。そうすることで、おのずと子どもたちが選択できる学校群が見えてくるのではないか。</p> <p>判断材料になる数値を事務局から出していただき、エビデンスの整った中で議論をしたい。</p>
町田委員	最低限の人数以上に教職員を配置すれば、教育内容の幅が広がるのは事実だが、現実的に考えると、適正規模を必須のものとせず、目標とするこ

森下委員	<p>とは必要かもしれない。</p> <p>スクールミッション、目指すビジョン、地域と合わせたそれぞれの学校の魅力を丁寧に洗い出し、向上させていくことで、人の流れを逆転させることも不可能ではないと思っている。</p> <p>そうなるには様々な努力が必要になるが、多様性が生きる特例校は今後増えていくと思うので、それぞれの個性が生きる学校を選ぶことができ、生徒中心の魅力的な学校が増えるとういと考えている。</p> <p>資料7「県立高等学校の在り方についてのアンケート調査結果」によれば、1学級を望む回答が、平成23年度よりも令和5年度の方が多く、県民の価値観が変化していると考えられる。</p> <p>一方、教育の質をどのように担保していくかについては、適正規模ではなく目標としつつ、多様なニーズを生かすための多様な選択肢につながる配置をしていけばよいのではないかな。</p> <p>高知市や南国市でも、1学級を望む生徒もいるだろうし、中山間地域でも部活動や自分の力を発揮したいと思い大規模校を希望する生徒もあり、何を持って適正とするかは多様化している。</p> <p>教育の質を担保しつつ、多様化にどう対応していくのかという姿勢が大事である。</p>
高等学校 振興課長	<p>学級規模が大きければ、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」の中で加配が増え、教職員定数の面で考えると、スケールメリットというものは存在する。</p> <p>ご意見をいただいた周辺部の状況については、細かなデータは十分に収集できてない。いろいろなシミュレーションも含めて、今後事務局で検討していきたい。</p>
教育長	<p>各委員から今後検討すべきことを出していただいた。</p> <p>生徒数が減少した場合には教員の配置数が減少する。教育の質の維持、多様化に対する教育を用意できるかという問題に対応するため、一定スケールを維持することも必要なのではないかな。</p> <p>適正規模をなくしてよいのか。子どもにはいろいろな感じ方、考え方があり、1学級を望む子どもたちもいるなか、何を持って適正と呼ぶのか。</p> <p>現状の学校をそのまま維持したり、単純に統合していくのではなく、新しい価値がある学校の姿というものを追求していかなければならない。</p> <p>都市部と周辺部、或いは中山間にある学校の在り方については、視点や意味合いが異なっている。中山間地域では、教育機会を確保するためにも必要な存在である一方で、都市部、周辺部の学校にはどのような意味を持たすのかを考えていく必要がある。</p> <p>これから議論する際に事務局にはデータ、先進の情報等を用意してもらいたい。</p>
高等学校 振興課長	<p>ご意見をいただいたとおり、中山間地域においては、各地域と高等学校の協働も大事になってくるため、地元からの進学割合も把握する必要がある。地元からの人気という観点も資料として示し、関係市町村と協議をす</p>

	る場も必要かと思う。様々な取り組み事例、シミュレーション等をして、事務局として、案を積み上げていく。
--	--

2 最低規模、学科改編について

○質疑

教育長	最低規模とあわせて学科の改編について、ご意見をいただきたい。
池委員	<p>資料7「県立高等学校の在り方についてのアンケート調査結果」によると、中学生が高校選択時に重視することは、教育課程や学科である。</p> <p>先進的な取組を行っている学校では、1人1台タブレット端末等のICT機器を活用し、探究活動等を学習の中心にして取り組んでいるイメージがある。これからの社会で子どもたちに必要な力は何かという観点から、教育課程や学科改編を考えていく必要がある。</p> <p>産業系専門学科は、高知県内で就職する割合も高く、重要な役割を果たしている。ただし、今の社会で必要とされる力をつけるために、教育内容や施設設備面も含めて考えていく必要がある。</p>
永野委員	<p>学科の改編については、支持されない学科、支持される学科について整理し、一つ一つ議論の俎上に載せていくべきだ。</p> <p>社会からの要請による学科改編だけでなく、高知県固有の問題、課題もある。学科と規模には密接な関係があり、一つの学科の募集人員が、学びを充実させるスケールには足りないこともある。また、学びの仕掛けが見えていないと、生徒がアプローチしづらいこともある。</p> <p>学科の改編は、魅力化の提示と密接に関係があるので、名前が変わる。社会の要請で変わるということではなく、課題が浮き彫りにならないと論議が深まらない。</p> <p>隠岐島前高等学校とは地域もねらいも違うが、そこに魅力があるから他県からも応募するのだと思う。県内の生徒たちに魅力化を提示することは急がなければならない話だ。学科について各課題を整理してもらいたい。</p>
町田委員	<p>全国で地域との協力や、探究というコースを聞くが、高知では海や川、自然環境の学科で魅力づくりができる。状況を俯瞰することが必要だ。</p> <p>自分から調べる子であれば、地域みらい留学などはネットで調べるが、そうでなければ、全国や世界にICTや新しい技術を取り入れた授業のスタイルや可能性があることを知らない。</p> <p>先生、保護者、生徒みんなが事例を見て、意見を聴取し整えていく場を作り、アンケートや意見を集め、参考にすることはできないか。隠岐島前やいろいろな話を聞かせてもらうが、多くの人に魅力的な活動を知ってもらい、当事者から意見を聞くこともあってよい。</p>
弥勒委員	<p>中学校卒業時に、進路や適性から、自分の将来像を明確に思い描いている人は少ないと思う。</p> <p>中学・高校は、人生を歩むための基礎的な能力、考え方を身に付ける段階であるが、今のシステムは中学の時点で普通科、工業科、商業科等を判</p>

	<p>断するようになっており、それでよいのか疑問だ。</p> <p>色々な分野で活躍している年代の近い人の話を聞くことがあると、自分の適性に気づき、将来に向けてのモチベーションに繋がると思う。</p> <p>トヨタが愛知県で海陽学園という全寮生の学校に携わっており、寮では、そのような機会が得られる仕組みになっているため検討に値する。</p> <p>県が市町村の将来構想を描き、それに合致する形で学校を形づくる必要がある。県の方針と歩調を合わせた中期的、長期的な構想が必要だ。</p>
森下委員	<p>清水高等学校が、地域を巻き込み方向性を決めていったプロセスが大事だと思った。高校を魅力化するとき、市町村の方々と話をして、地域を巻き込みながら学科改編をしていくことも考えないといけない。</p> <p>今の資料だけでは方向性が見えないので、地域を巻き込みながら学科改編に取り組んだ情報をもらい、県民と一緒に考えたい。</p> <p>外国籍の子どもが増えてきたのは実感している。不登校の生徒、日本語を母語としない生徒への教育の機会は、在り方検討委員会の提案にもあるように急務なので検討していただきたい。</p>
池委員	<p>高校の在り方を検討することは重要な議論であり、現在の資料だけでは判断しづらい。各市町村と高等学校の取組状況、全国の事例、生徒数のシミュレーション、市町村の思いも含めた意見をもとに判断していかないと、よい在り方検討委員会にならないのではないかと。</p> <p>9月までの5回で結論に向かうのは厳しいので、事務局でスケジュールを検討して、我々が議論できる材料を与えていただきたい。</p>
教育長	<p>データを収集し整理しなければならない。そして、結論までのスケジュールを新たに提案しなければならない。</p> <p>学科改編等については、社会からの要請とともに、子どもたちにとって魅力ある学科を用意できれば、隠岐島前のようなにもなる。</p> <p>世界、日本で実際行っている先進的な授業や、学校の在り方の情報を教員、子ども、保護者が知ることは必要であり、トヨタの海陽学園の取組を紹介いただいた。</p> <p>県の将来構想に基づいて、方向を考えていく必要があり、次期計画を策定するには、地域の声、市町村の思い、具体的な地域別の子どもたちの状況、シミュレーションなどのデータも必要である。</p>
高等学校 振興課長	<p>資料、エビデンスはしっかり用意しておく必要がある。</p> <p>普通科の中身について、例えば、土佐清水市で、小中高を通して一つの教育プログラムを作るという取組に対して、ジョン万次郎を目指すべき人間像に掲げ、英語教育を一つの柱、もう一つの柱を探究的な学びとし、清水高等学校で実施するという協議のもと、普通科を変えて未来共創科が生まれた。地域と一緒に行う活動が、学科改編に必要なだと思っている。</p> <p>中長期構想を持って高等学校の在り方を考えていく必要があること、異年齢との関わり方も大事であるということ、日本語を母語としない子どもたちへ学校としてどのような教育が用意できるか検討する。</p> <p>今、全国の情報収集をしており、次回、他県の取組状況を、校種、課程</p>

	別に紹介する。
--	---------

3 適切配置に向けて

○質疑

教育長	適切配置について、どのように考えるかご意見をいただきたい。
永野委員	<p>中山間地域や離島などの学校では、比較的特色が出しやすい。一方で、都市部でもなく、山地や離島でもない、いわゆる中間部の学校の特色を出すのは難しいのではないかと思う。</p> <p>中間部の学校をどのように成立させていくかということを、一つのテーマとして扱っていただきたい。中間部の学校について議論することは、学科改編や適正規模などの議論にもつながっていくのではないか。</p>
池委員	<p>適切な配置となると、各地域に中核となる学校が必要である。ブロック毎に4学級若しくはそれ以上の学校が存在することが重要ではないか。一方で、小規模校ばかりの地域は、その地域の活性化も含めた検討が必要である。</p> <p>永野委員の意見にもあったように、高知市のような中心部と中山間地域だけではなく、いわゆる周辺、中間地帯にある学校の在り方を含めて検討していかないといけない。子どもたちには教育を受ける権利があり、登下校が可能な範囲に学校は配置されるべきと考える。</p> <p>橋原高校は、橋原町と協力して建てた寄宿舎が生徒数増加の一因になっている。そうした寮や通学バスなどの話も含めて、学校の配置については考えていかないといけない。</p> <p>また、定時制・通信制の配置について、夜間の方が昼間よりも通学の面で厳しい状況にある。例えば、夜間の定時制が地域で1校のみになったとしたら、夜間に利用可能な交通機関がどれだけ存在するのか、通学が困難となるのではないかと考える。</p> <p>定時制は生徒数が少なくなっており、昼間就労して、夜間に学習するという目的ではなくなっているかもしれないが、個別的な教育などを受けたい生徒が通うことができないのは、大きな問題となる。高知県は交通機関が発達していないので、夜間の登下校についてのイメージも含めた議論が必要である。</p> <p>そして、通信制の学校といえば北高校と大方高校のイメージだが、東部には通信制の学校が存在しない。これらも含めたうえで、定時制・通信制の配置について今後検討していく必要がある。</p>
町田委員	<p>適切配置については、学科や学校の魅力化と関連していくものと考ええる。</p> <p>ある程度通いやすい場所にあるというのは大事だが、資料7「県立高等学校の在り方についてのアンケート調査結果」を見ると、中山間地域以外では、学校までの距離よりも学科・コースを重視している子どもが多く、中山間地域では通いやすさを重視している子どもが多い。住んでいる地域とコンテンツ、魅力などは密接に関係していると思うことから、全体を俯瞰してそれぞれの魅力、地域と属性など、様々なことを統合して検討する</p>

教育長	<p>必要があるのではないか。</p> <p>例えば、魅力を感じている学校が自宅から遠く通いづらい場所にあるのであれば、寮など、生徒へのサポートや支援を厚くすることが解決につながることもある。多様な検討材料が必要である。</p> <p>確かに、魅力化との関係性の中で、中山間地域の学校の活性化に焦点を当てて取り組んできたが、いわゆる中間部、周辺部にある学校の活性化は十分とは言えない。これらの学校の魅力化、活性化をどのように図っていくのかということも一つの大きなテーマとなる。</p> <p>また、各地域にある学校も、教育を受ける権利を保障する点では重要であるが、全ての学校が同じ様な小規模校となってしまうたら、子どもたちのニーズに応えるのは難しい。</p> <p>さらに、定時制・通信制の在り方に関しても意見があった。</p> <p>これらの意見に関して、事務局から何かあるか。</p>
高等学校 振興課長	<p>高等学校再編振興計画の内容としては、中山間地域にある 10 校をどのように振興していくかということを重視しており、高等学校と地域との協働であったり、遠隔教育や I C T の活用による教育機会の確保などの取組を進めてきた。</p> <p>中間部、周辺部の高等学校に関しては、子どもたちがどのようなニーズを持ってその学校に進学しているのかなど、状況を詳しく調べていく必要がある。多様な検討材料が必要であるため、それらを整理したうえで、事務局として協議を進め、提案という形でまとめていきたい。</p>
教育長	<p>地域の声や市町村の思いはどのようなものがあるのか、地域別等に子どもたちの数のシミュレーション、全国や世界での新しい学校の在り方など、これらの情報をより整理して、可能な限り多くの情報を次回の会議では提示していきたい。</p> <p>併せて、次期計画策定に向けたスケジュールについても、より明確なものを持って提示しないといけない。</p> <p>これらの点について、事務局には対応をお願いする。</p>